

北海道深川西高等学校

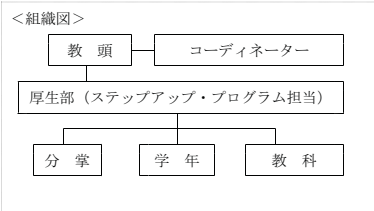
課程 全日制
学科 普通科
生徒数 442名

1 取組の特徴

生徒のコミュニケーション能力の育成とともに教員の予防的・開発的教育相談スキルの一層の向上を図るため、ピア・サポート等を活用したコミュニケーション能力育成プログラムを実施する。

2 取組のねらい

- ピア・サポートの取組を計画的・継続的に実施するとともに、生徒へ還元し、生徒の生きる力を育み、学校の活性化に取り組む。
- 全学年でQ-U検査を実施し、学級満足度を高めて学力・学習意欲の向上に繋げる学級経営を目指す。特に、1学年は学校環境適応感尺度検査も実施し、学級づくりに活用する。



3 取組の経過 (月別に記載)

- | | |
|-----------|--|
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> 1学年宿泊研修：テーマ「仲間づくり」
SGE Q-U検査
対象：全学年(3年12日、1、2年13日) |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> 校内研修：テーマ「学級満足度を高める予防的教育相談のあり方～Q-U検査結果の有効活用について～」
講師：砂川小学校教諭 北河 剛治 氏 |
| 9, 10, 1月 | <ul style="list-style-type: none"> 担任とのアセスメント共有、個別カウンセリング、教員とのアセスメント共有
対象：1～3年希望生徒 講師：臨床心理士・スクールカウンセラー 浦 伸子氏 |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> 1学年団、厚生部及び希望教員研修 「学級づくりに役立つエクササイズ」『授業に活かす集団カウンセリング』アセスメントと次回の取組への説明
対象：1学年 講師：北海商科大学教授 大友 秀人 氏 |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> 1学年団、厚生部及び希望教員研修 「教科に活かす集団カウンセリング」合評会等の実施
対象：1年1組 外国語「OC」授業 講師：北海商科大学教授 大友 秀人 氏 |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> 1学年Q-U実施 |
| 12, 1月 | <ul style="list-style-type: none"> 異校種連携～学習ボランティア～「チャレンジ深川」
対象：1、2年希望生徒
場所：深川市立一巳小学校、深川市立深川小学校 |

4 取組の内容

- 1学年宿泊研修
ア 日 時 5月1日(日)～2日(月)
イ 対 象 1学年
ウ ね ら い 入学もない生徒の仲間づくりとピア・サポート導入
エ 内 容
(ア) 講師：道立青年の家の職員
(イ) 教員対象研修：「SGEについて、クラス取組への心構え」
(ウ) 研修1：後出しジャンケン、名前集めジャンケン、バースデイライン、聴いてもらえない聴いてもらえる体験、振り返り
(エ) 研修2：買い物拍手、何でもバスケット、となりのとなり、アドジャン足し算トーク、ハイドロワープ、インパルス膝たたき、振り返り
(オ) 研修3：ビーイング、インパルス膝たたき、振り返り、アンケート
オ 成果と課題
(ア) 成果
・生徒から、「仲間との団結力を学んだ」「コミュニケーションの大切さを痛感した」「もっと多くの人と仲良くなりたい。笑顔を忘れず話したい」等の感想が多くあり、当初のねらいが果たせた。前年度より内容が充実した有意義な研修となった。
(イ) 課題
・本校独自の実施マニュアルを作成し、改善を継続する。
・本校教員がSGEをリードできる研修を推進し、実践する。
- 1学年 Q-U検査実施日
ア 日 時 5月13日(金)
イ 対 象 1学年(受検人数…135名)
ウ 検査結果
学級満足群…58人(43%)【全国36%】 侵害行為認知群…17人(13%)【全国15%】
非承認群…25人(18%)【全国23%】 学級生活不満足群…35人(26%)【全国26%】
エ 分 析
本校の学級満足群は43%であり、全国との比較では、7ポイント高いことから、学校生活に満足している生徒の割合は多いといえる。その一方で、本校の学級生活不満足群は、全国と同じ26%である。このことから、本学年の特徴は、学級に満足している生徒と不満足である生徒の二極化であることがわかった。
- 学級づくりに関する集団カウンセリング・授業に活かす集団カウンセリング
ア 日 時 9月27日(火)
イ 対 象 1年全クラス生徒 135名、教員12名
ウ ね ら い
(ア) 集団の中でのコミュニケーション能力の育成
(イ) 授業の活性化と学力の向上
エ 内 容 講師：北海商科大学教授 大友 秀人 氏
(ア) 学級づくりに役立つエクササイズ
(イ) 授業に活かす集団カウンセリングと学級環境適応検査
次回取組へのスーパービジョン実施
オ 成果と課題
(ア) 成果
「仲間の新しい面を発見し、更に絆が深まりました。」「一人一人の考え方が違うのは当たり前だと思いました。」「グループ・エンカウンターをやることで、みんなのことをもっと知ることが出来ました。楽しかった。」等の意見が多く、この研修のあと、生徒の欠席・遅刻・早退が減少した。
(イ) 課題
・ピア・サポートの意識の高揚を図り、集団でのよりよい人間関係を育成する必要がある。
・1学年だけの取組ではなく、全校的なものにする必要がある。
・「高1クライシス」の実態を踏まえた、指導マニュアルの作成が急務である。
- 授業に活かす教育カウンセリング
ア 日 時 11月7日(月)
イ 対 象 1年1組



ウ ねらい

教育カウンセリングの手法を活用し、言語活動を取入れた楽しい授業づくりを通して、学習意欲を向上させ、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。

エ 内容

(ア) 公開授業科目：外国語「オーラルコミュニケーション」

(イ) 講師：北海商科大学教授 大友 秀人 氏

(ウ) 「教科に活かす集団カウンセリング」1学年団、厚生部、希望教員研修合評会とスーパービジョン実施

オ 成果と課題

(ア) 成果

- ・「グループの人の考えを聞いたりして協力できたと思います。」等、多くの生徒の感想が寄せられた。
- ・「ラーナーズの問題（疑問詞）をグループで協力して行うことができた。」という項目では、6割が「大変よい」という評価であった。

(イ) 課題

- ・昨年度は保健体育、今年度は英語で教育カウンセリングを授業に生かす取組を実施したが、今後は他の取組も広げて学習意欲の向上に努める。
- ・ピア・サポートを導入した補充的な学習を推進する。

(5) 1学年 Q-U検査実施日（2回目）

ア 日 時 平成23年12月15日（木）

イ 対 象 1学年（受検人数…128名）

ウ 検査結果

学級満足群…55人（43%）【全国 36%】非承認群…29人（23%）【全国 23%】
学級生活不満足群…26人（20%）【全国 26%】侵害行為認知群…18人（14%）【全国 15%】

エ 分析

本校の学級満足群は43%と高い数値が出ており、生徒の半数近くが基本的に学校生活を楽しく過ごしている。全国平均と比較すると、侵害行為認知群と非承認群は同程度の比率であるが、学級生活不満足群は6ポイント少なく、学校生活が楽しいと感じている生徒が増えている。

(6) 異校校種連携～学習ボランティア～「チャレンジ深川」

ア 日 時 12月27日～28日（会場：一巳小学校）

12月27日、1月11日～12日（会場：深川小学校）

イ 対 象 1、2年生40名（学習ボランティア参加生徒）

ウ ねらい

自分や相手の人権を尊重した上で、自分の意見や気持ちをその場の適切な言い方で表現できるようにするとともに、ステップアップ・プログラムの成果と課題の検証する。

エ 内容

深川市教育委員会が主催する小学生対象の「チャレンジ深川」事業において、講師のアシスタントとして、ボランティア活動にかかわり、児童の解答問題の採点や、児童への問題の解き方のワンポイントアドバイス等をする。

オ 成果と課題

(ア) 成果

- ・生徒は教員の予想以上に意欲的に取り組んでいた。特にワンポイントアドバイスでは「満点だね」「もっと考えてみよう」等と児童を励ます場面が随所に見られた。コミュニケーション能力を活用する良い機会となった。
- ・生徒から「小学生と話して視野が広がった感じです。楽しく自分にもいい勉強になります。」「先輩たちが真剣な表情でがんばる姿が見られてうれしかった。」「将来は教員になりたいと思っているので、自分自身も勉強させてもらいました。」「コミュニケーションの重要性を痛感した。」「教える難しさを実感した。」「最初から最後まで笑顔で接することができて良かった。」という感想があった。



- ・参加した生徒へのアンケートにおいて「大変良かった。有意義だった。」と回答した生徒の割合が、95%を超えていたことから、充実感のある有意義な支援活動だったといえる。また、小学校の先生からも、「生徒のアシスタントは、優しく声がけをするなど児童が安心して参加できたのでよかった。」など、良い評価ももらった。

(イ) 課題

- ・生徒のコミュニケーション能力の育成のため、市教委と連携し、学習ボランティアの取組をより一層充実させる必要がある。
- ・生徒の達成感を一層高めるため、事前指導及び事後指導を充実させる必要がある。

5 次年度に向けて

1 成果

ア 不登校生徒数、中途退学者および保健室利用状況の推移

①不登校生徒数 平成21年度3名 → 平成22年度1名 → 平成23年度2名

②中途退学者 平成21年度2名 → 平成22年度1名 → 平成23年度2名

③保健室利用者数（延べ人数）平成21年度1241名→平成22年度992名→平成23年度814名

（※冬季休業まで、前年同期では822名）

イ 学級適応検査等の結果（1学年Q-U検査）

学級満足群の比率43%は変化していないが、学級生活不満足群は26%から20%に減少しており、学校生活に慣れてきて楽しく過ごしている生徒が増えている。

質問項目の中で「クラスやクラブ活動でリーダーシップをとる」と「学校内に気軽によく話ができる先生がいる」に改善がみられるなど、学校生活が良くなっていると感じている生徒が増えている。

ウ 生徒の変容した姿

(ア) コミュニケーション能力育成プログラムを実施した成果

市教委が夏・冬休みに実施した「チャレンジ深川：市内小学生のための学力アップ教室」のボランティアを通じて、「小学生と接して視野が広がった。楽しくて自分にも良い勉強になった。」などコミュニケーションの大切さを実感した生徒が多かった。

(イ) ピア・サポート・トレーニングの成果

平成22年10月から平成23年9月までの1年間、吹奏楽局の生徒を対象に、ピア・サポート・トレーニングを実施した。生徒からは、「友達の相談に乗り、一緒に解決法を考えたり、相手の気持ちを考えながら話すことが出来るようになった」「部活の雰囲気が明るくなり、とても楽しくなった」「挨拶をしたり、廊下のモップがけ、生徒玄関のペットボトルやゴミの片付けなどを積極的にやるようになった」との感想が寄せられた。

また、吹奏楽局の生徒が、別室登校の生徒を支援する場面も多く見られた。その結果、当該生徒が、ホームルームに出席したり、授業や講習を受けたりするなど、卒業に向けて歩み出し、集団の中に戻りつつある。このように、ピア・サポート活動はサポーター自身の自己肯定感を高めるとともに、友達支援のモチベーションを高めることにも寄与している。

2 課題

ア Q-Uやアセスなどの学級適応検査の結果を学習指導や生徒指導に生かすなど、より効果的な活用が必要である。

イ コミュニケーション能力育成プログラムを継続的に実施し、生徒の学級満足度を向上させるとともに、学校生活の活性化に向けて取り組む必要がある。

ウ コミュニケーション能力育成プログラムを教育課程に位置付け、量と質の充実を図る必要がある。

3 次年度に向けて

ア Q-Uやアセスなどの学級適応検査結果の分析及び活用についての研修を推進する。

イ 校内・外の研修を推進し、知識・技能を学校全体で共有し、教職員のカウンセリングマインドの一層の理解を深める。

ウ コミュニケーションスキル育成プログラムを教育課程に位置付ける。

エ 異校種交流、学習ボランティアを推進し、支援活動を活性化させる。